



ABCアナウンサー 堀江政生の

シンフォニア・アワー

ザ・シンフォニーホールに縁のあるアーティストたち。堀江政生氏が、ここだけのとっておき舞台裏エピソードをご紹介します。



vol.1 関西クラシック界に新しい風を！ ～日本センチュリー交響楽団・首席指揮者 飯森範親氏

※2014年4月より就任

出会いは、ザ・シンフォニーホールの楽屋でした。2013年2月に行われた「ABCフレッシュ・コンサート」の指揮者合わせ取材させてもらったのです。ソリストである若いピアニストとヴァイオリニストとの顔合わせをかねた打ち合わせ。そこでソリストたちは飯森さんの前で実際に演奏して、テンポや間などを決めていく緊張の現場でした。

驚いたのは、飯森さん、スコアを見ないんですね。「僕はこの曲、何百回もやっているんで頭に入っているんだよね…」常に物腰は柔らかく、若いソリストたちの意見を十分に聞き、彼らの音楽を尊重しつつ的確にアドバイスをされていく。このあたり、さすがに大きなコンクールのソリスト部門でオーケストラとの合わせをしてきている飯森さん、実に巧みなマエストロとしての一面を見せていただきました。

一通り取材が終わると、「僕、これから何やかやと関西でやりたいことがあるんで、堀江さん、携帯教えてください？」と気さくにおっしゃり、いくつかある携帯電話に私の番号を登録。そこから私に電話して、番号の交換をしてその日はおしまい。

その数か月後、センチュリーの首席指揮者就任のニュースが飛び込んできました。「これが…」早速『ザ・シンフォニーホール・アワー』に出演依頼を携帯で直接申し込み、快諾を得ました。

再会は、朝日放送の玄関前。予定より早くお越しになった飯森さんは、大きなキャリーケースと日本経済新聞を片手にスマホで仕事の電話をしている最中。そのいでたちは、IT企業の経営者さながらのものでした。

もちろん番組では「関西でやりたい何やかや」をいろいろ伺おうと仕向けたのですが、「言いたいんですが、まだ言えないことがいっぱい…」ともしかしそう。しかし言葉の端々に自信がみなぎっているのです。このあたりも企業戦士らしい。

いま、日本センチュリー交響楽団が飯森範親という人物に白羽の矢を立てたのは、マエストロと企業戦士の両面を併せ持っているからに他ならないと言えるでしょう。

その飯森さんが、まさに八面六臂の活躍をすることによって、センチュリーにとどまらず、関西のクラシック界に新しい風が吹き、大きなうねりとなってくれることを、期待しています。

公演の聴きどころ、豪華ゲストを招いてのお話など、名曲とともにご紹介！

🎙️ 堀江政生のザ・シンフォニーホール・アワー

ABCアナウンサー堀江政生が、豊富なクラシックの知識を余すところなく語る30分。

1008 ABC Radio

毎週日曜日
あさ7時5分～7時35分